

「解説」須弥山

多摩市 和久井博（幸町出身）

先日、Jネットの名古屋サロンで太田会長から「妙高山」という名前は大変大きな名前前で、仏教の世界観を表わした空想上の山「須弥山（しゅみせん）」からとったものだと教わりました。そこで、仏教に関係することなら鎮西さんにお願ひするのが一番と、翌日電話で原稿のお願ひをした次第です。

しかし、仏教の専門用語が多く出てきて、素人にはわかりにくいので、インターネットで調べながらわかりやすい解説を試みました。

お釈迦様の教えにある宇宙の考え方のひとつが図に描いた須弥山の図です。三枚の円盤上に高さが百万キロメートルの須弥山が乗っています。円盤の直径は百億キロメートルですからほぼ太陽系くらいです。これがひとつの世界で「小世界」といい、これが千個で「小千世界」、小千

世界が千個で「中千世界」、中千世界が千個で「大千世界」です。

キロ、メガ、ギガ、テラとコンピュータの世界と同じ単位系ですね。

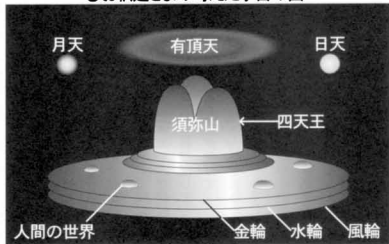
大仏さんが管理するのは「三千大千世界」ですからとにかく大きいですね。三テラ小世界ということになります。

お釈迦様はこの中の小世界の人々を導くために現れた仏様だそうです。

円盤の真ん中にある山が須弥山ですが、鎮西さんが説明されているように梵語ではスメールセンです。これを西遊記で知られる玄奘三蔵法師が妙高山と訳したとあります。

一番上の円盤は金輪といますが、その際（きわ）までということでは金輪際という言葉が使われます。世界の果てまでということ、「どんなことがあっても」という意味で使われています。また、須

●お釈迦さまの考えた宇宙の図



直径：12億3450由旬≒135億km

弥山の中腹に四天王がいます。四天王は神様ですから神様が仏教を守っていることになりますね。

また、須弥山の模型が博物館のホームページに出ていました。須弥山儀といいます。地球儀ならぬ宇宙儀ですね。ゼンマイ仕掛けで動くようです。

●須弥山儀



地球儀ならぬ宇宙儀ですね。動くようです。